

社会心理学②



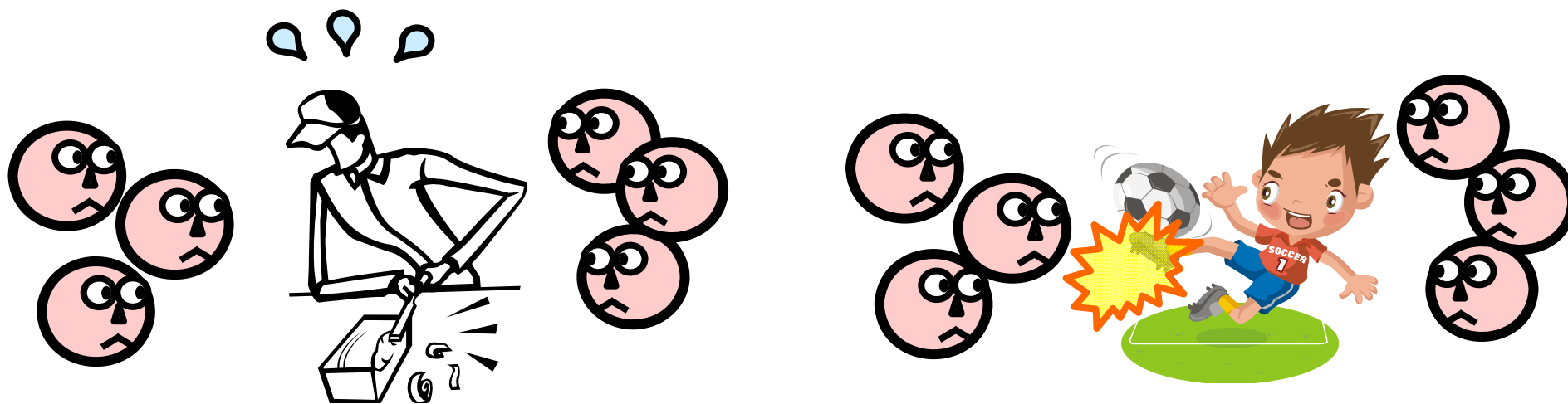
心理学 I 第11回

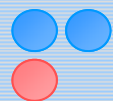
他人が見ていると、人の行動はどう変わる？

ひとりのときと比べて…

何かの作業や行為を
ひとりでやっているときと、
誰かに見られながらやっているときでは、
やりやすさが違う、ということはないだろうか？

Q1





社会的促進と社会的抑制

社会的促進

他者が存在することで、ひとりで行うより作業の成績等が向上すること

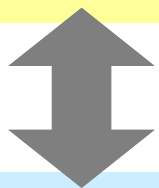
共行為者効果

他者がそばで同じ作業をしていると促進



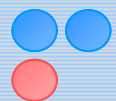
観衆効果

他者がそばで見ているだけで促進



社会的抑制

他者の存在が作業の成績等を低下させること

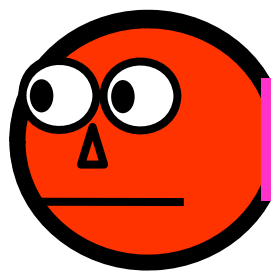


促進か抑制か

なぜ他者の存在は、促進の原因になったり抑制の原因になったりと、一定しないのか？

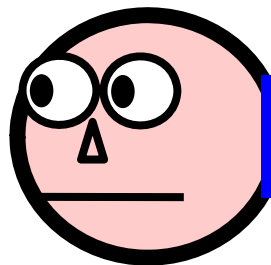
◆ ザイアンス(1965)の覚醒水準理論

作業には、適切な覚醒水準がある



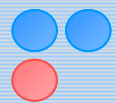
覚醒 中～高

よく慣れた作業や単純作業、
素早さが必要な作業向き



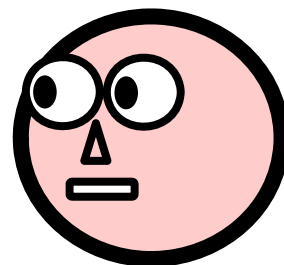
覚醒 低～中

慣れていない作業や複雑な作業、
慎重さが必要な作業向き



他者の存在による覚醒

作業者



他者

覚醒水準が上昇

よく慣れた作業や単純作業などは
成績や効率が上がる

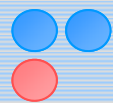


社会的促進

慣れていない作業や複雑な作業は
成績や効率が下がる



社会的抑制

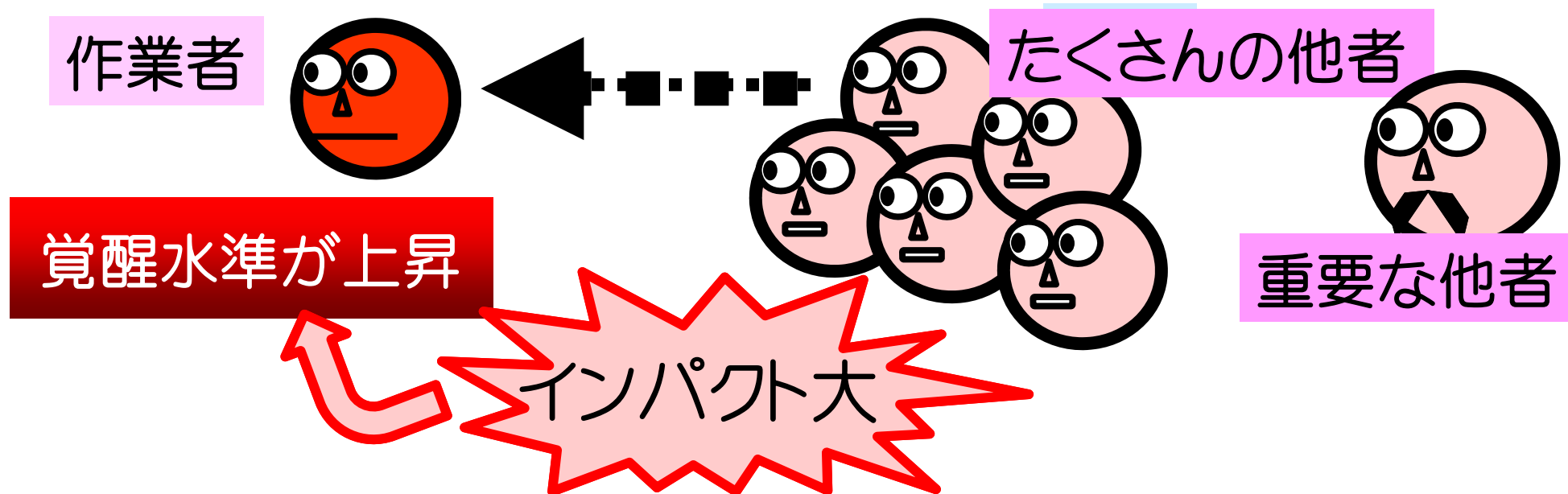


他者の種類

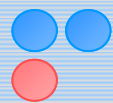
作業をするとき、どんな人に見られているとやりにくい？

◆ラタネの社会的インパクト理論

Q2

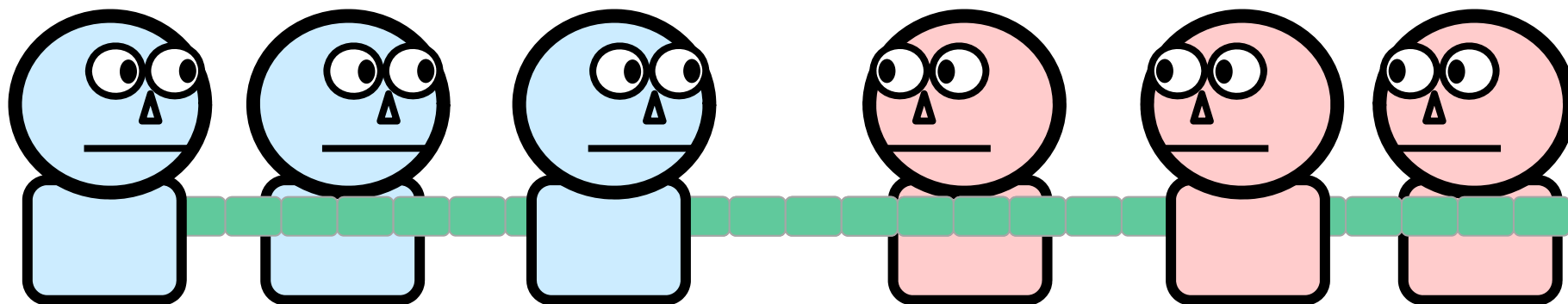


※ 逆に、1人の他者がたくさんの作業者を見る場合や、重要でない他者の場合はインパクト小



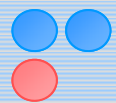
力を合わせて？

運動会で綱引きをすることになった



「1対1綱引き」に参加するときと、
「団体綱引き」に参加するときでは
どちらでより頑張る？

Q3



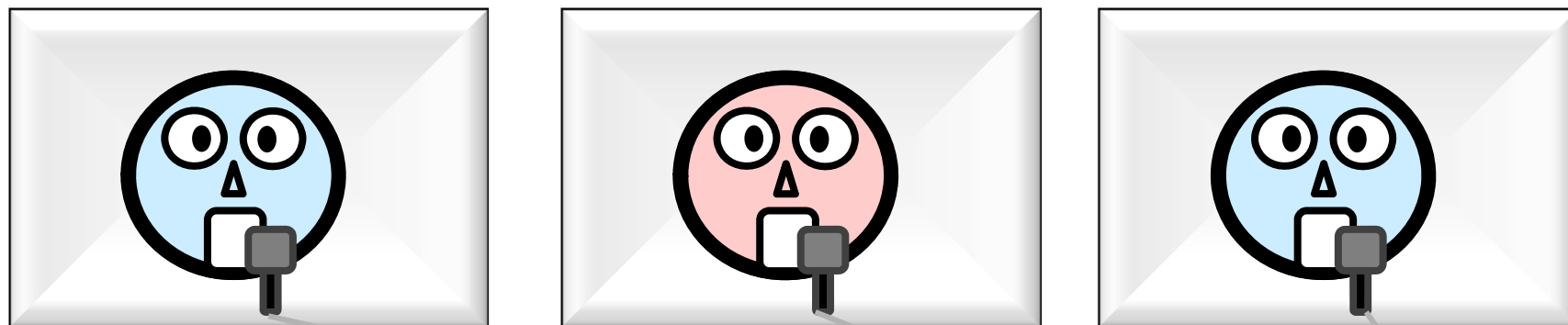
社会的手抜き

社会的手抜き

集団での協同作業で、
一人当たりの作業量・努力量が、
人数が多くなるほど低下する現象

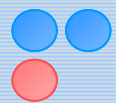
◆ ラタネ (1979) の実験

実験参加者はひとりで防音のきいた部屋に入る

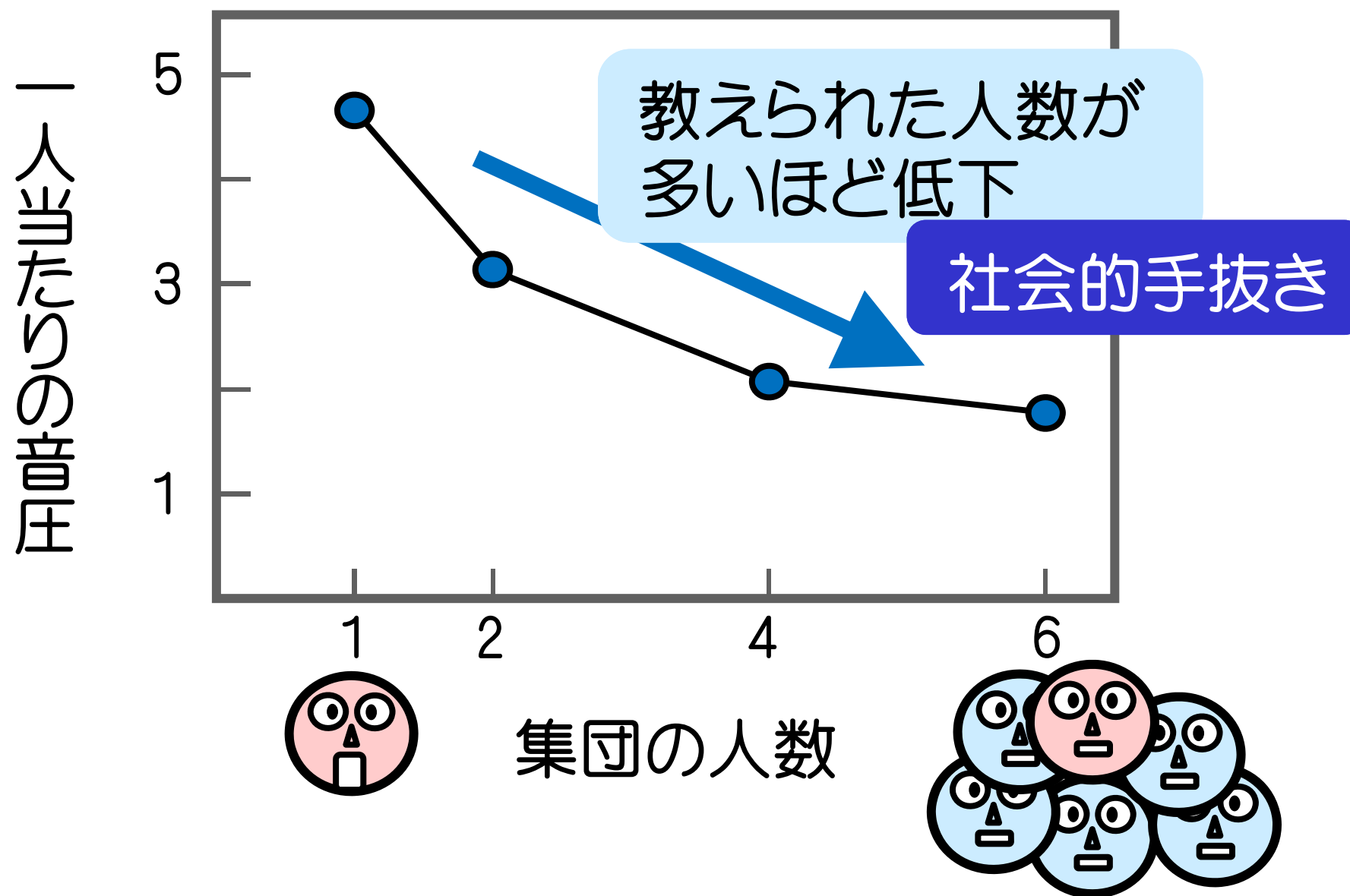


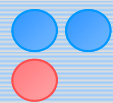
集音

できるだけ大きな声を出すように指示される
その際、同時に声を出す参加者の人数を教えられる



ラタネ(1979)の実験結果



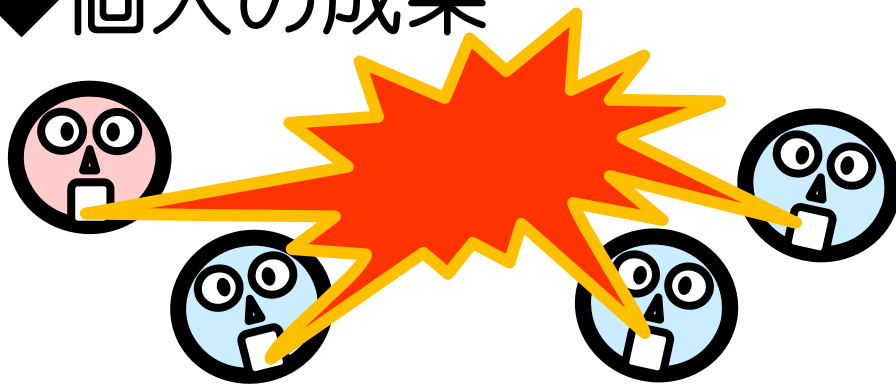


社会的手抜きに関わる要素

ラタネの実験で、6人集団でも1人のときのような大声を出させるにはどうしたらよいか？

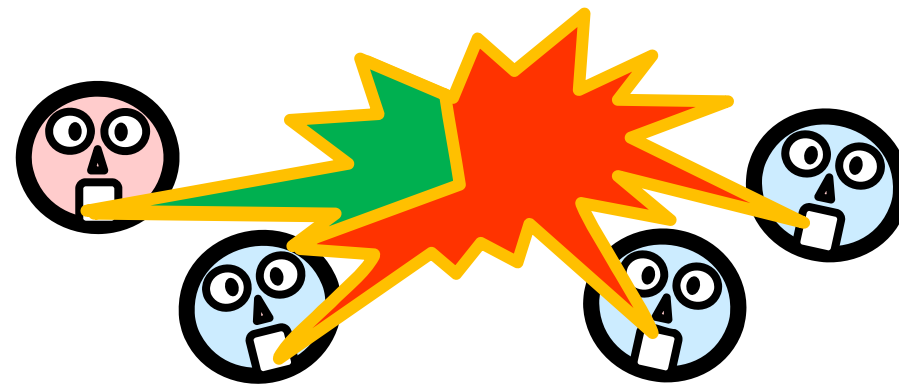
Q4

◆個人の成果



個人の成果が問われない

社会的手抜きが起きやすい



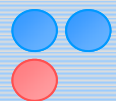
個人の成果が明確になる
(他者にも知られる)

理由

◇責任の所在が不明確

◇最小の努力で結果にただ乗ることができる

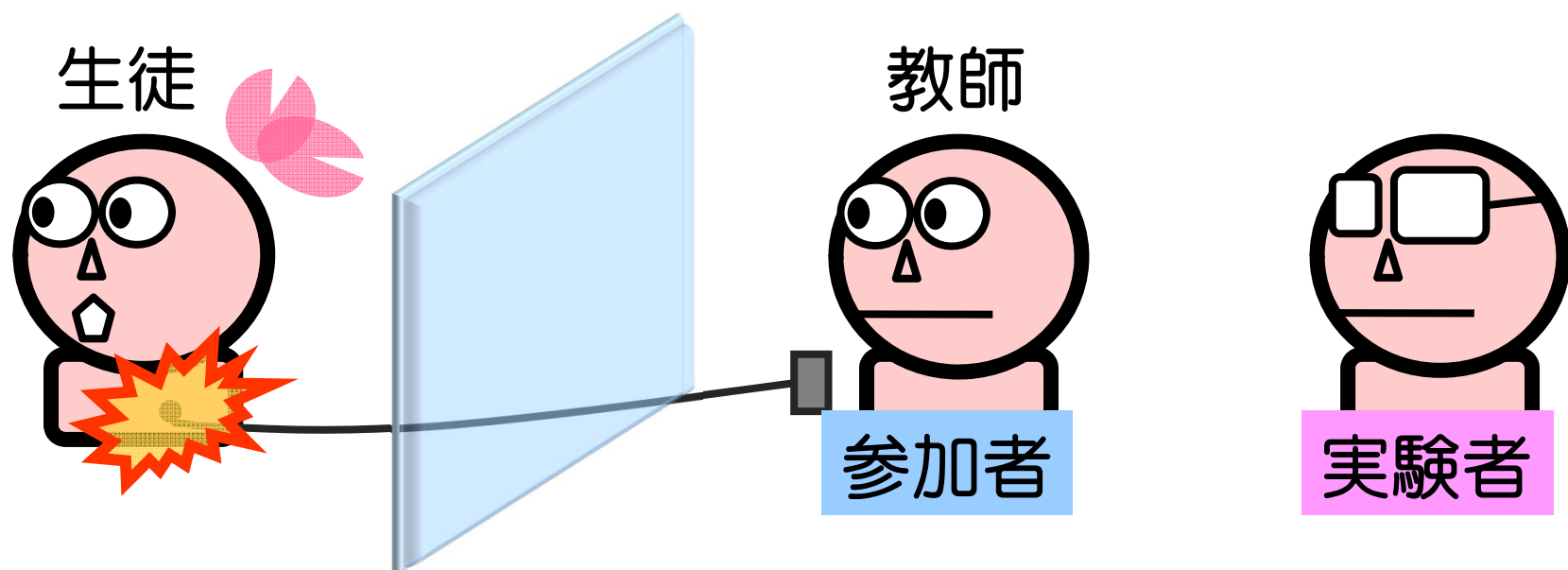
フリーライダー効果



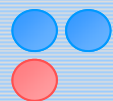
アイヒマン実験

◆ アイヒマン実験（ミルグラム, 1963）

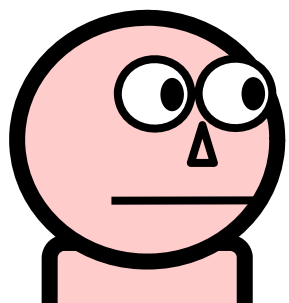
実験参加者は教師役で、生徒が課題を間違えたら電気ショックを送るように指示される



間違いのたびに電気ショックを1段階ずつ強めるように求められる



アイヒマン実験



参加者

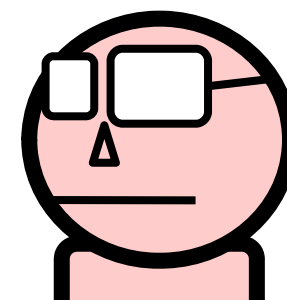
参加者はただスイッチを押し続けることは
ほぼなく、実験者に対して中止を提案するが…
そのたびに実験者はそれを拒否する

【1回目】どうぞ続けて下さい

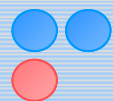
【2回目】実験上あなたが続ける
ことが必要です

【3回目】あなたが続けることが
非常に重要なのです

【4回目】他の選択はありません。
あなたは続けねばなりません。

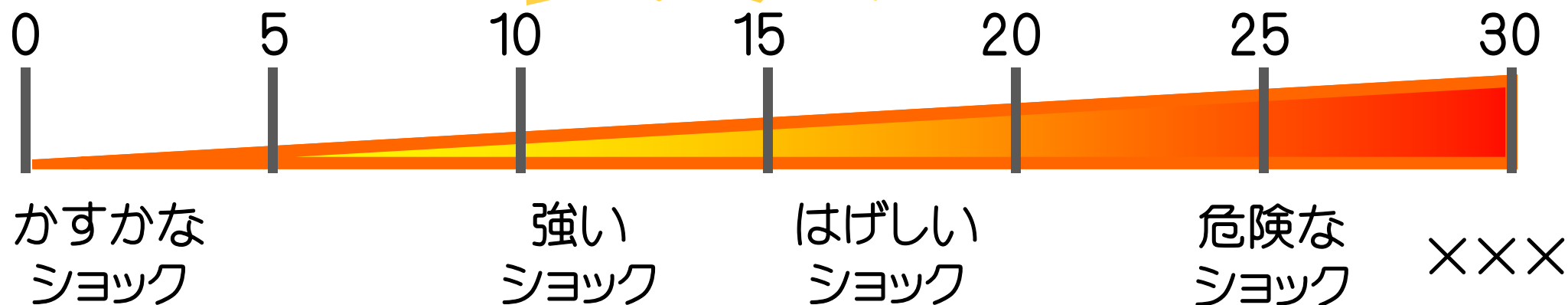


実験者



アイヒマン実験の結果

電気ショックレベル



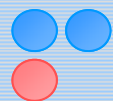
➡ この状況で、自分ならどこまで指示に従うか？

Q5

そのレベルで
中止した人数
(全40人)

5 4 2 1 1 1 26

65%の人が最高水準のショックを与えた



服従 (obedience)

別の人たちに対する聞き取り調査では...

「自分なら最高のショックまで与える」という人はいなかった

しかし、世界中の追試実験で...

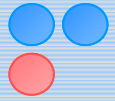
ミルグラムの実験と同様の結果が得られた

服従

権威者からの命令や指示に従うこと
心理的に**代理状態**に移行する

自分の行動への責任感が低下

意思に反する行動や、非人間的行動も実行



長さの比較

左の線と同じ長さなのは、右の線1～3のうちのどれ？

Q6



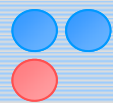
1



2



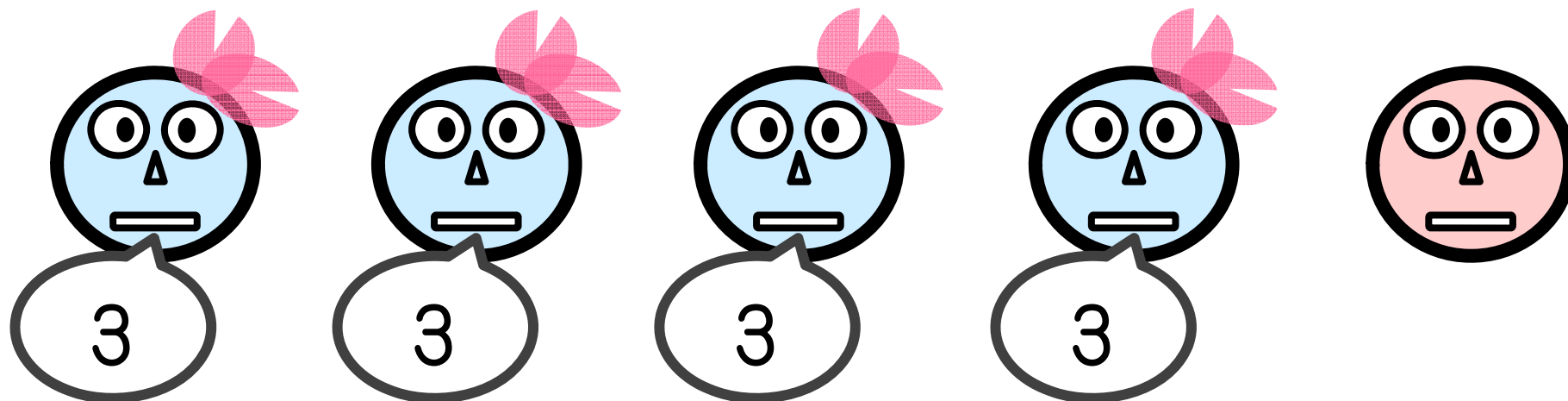
3



アッシュ(1955)の実験

◆ 同調実験 (アッシュ, 1955)

集団で、どれが同じ長さか順番に答えを言う

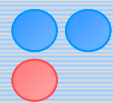


被験者の回答順は最後のひとつ前

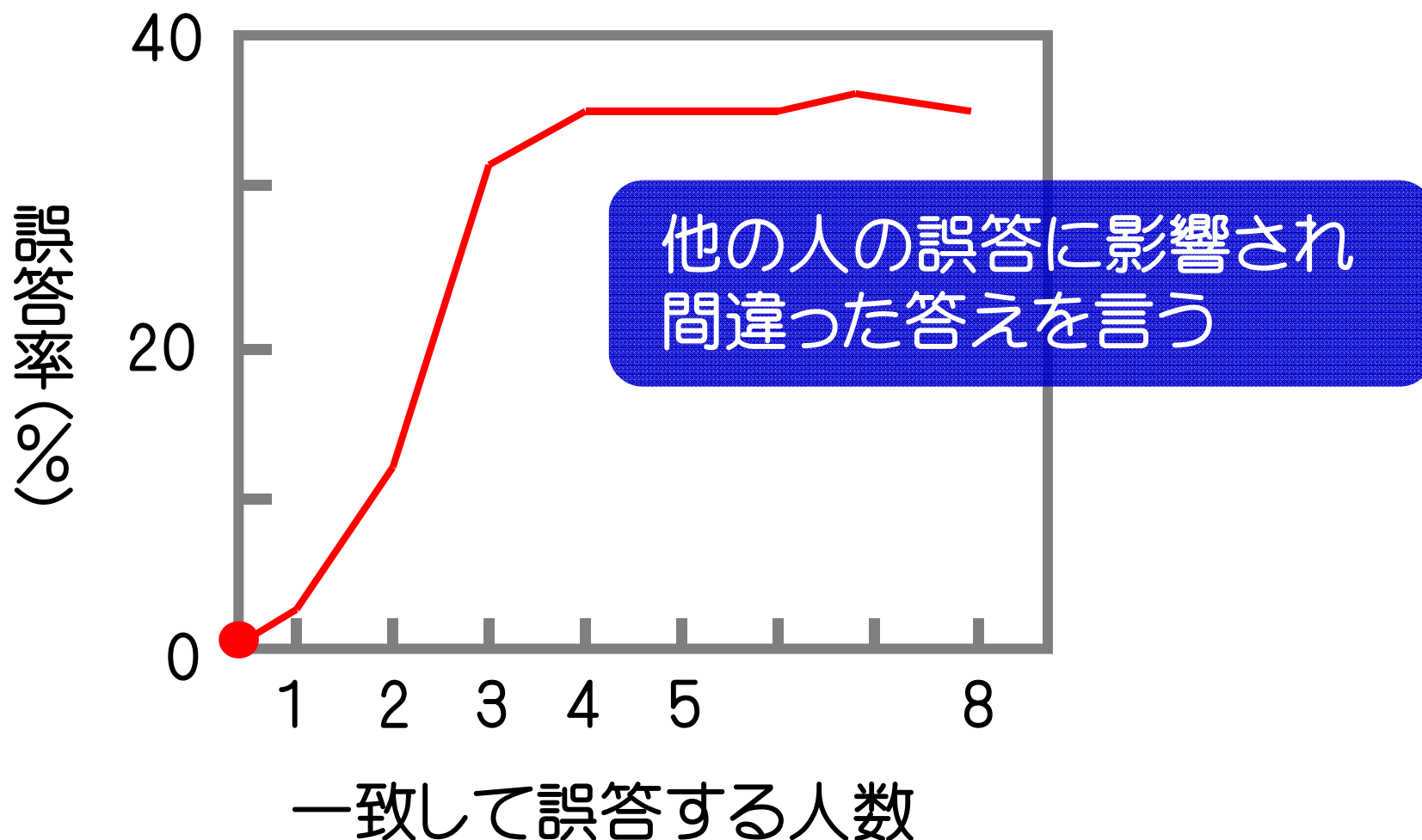
それまで他の全ての参加者が一致して誤答する

➡ あなたが被験者なら何番と答えるだろう？

Q7

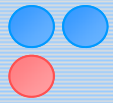


アッシュ(1955)の実験結果



➡ なぜ被験者はこうした行動をとってしまうのか？

Q8



同調 (comformity)

同調

集団や他者の設定する標準や期待に沿って、その人びとと同様の行動をとること

◆同調行動が起こる理由 (ドイチュ&ジェラルド, 1955)

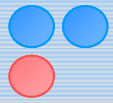
同 調 圧 力

情報的影響

正しい判断をしたいので、他者の情報を有用だと考える

規範的影響

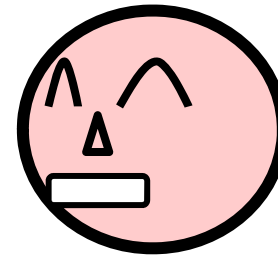
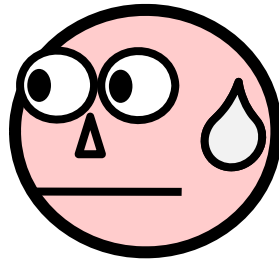
他者に好かれたいので、規範から逸脱しないようにと考える



自己呈示

テスト直前…。

一応は勉強したが、どのくらい出来るか自信がない。



そんなとき、一緒にテストを受ける友達から
「テスト勉強した？」

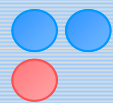
と聞かれたら、何と答えるだろう？

Q9

自己呈示

相手に与える自分の印象をコントロールしようとする試み。印象操作。

ここでの発言にも、相手に自分がどう思われたいかが関係



自己呈示としての手抜き

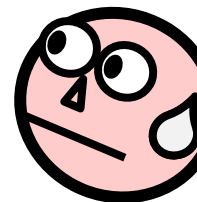
- もし、テストで悪い点をとったら...

悪い点数



能力が低い

...と評価される不安



自尊感情

そこで、他の言い訳をあらかじめ作っておく

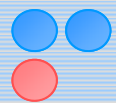
能力に直接つながらない要素

忙しくて勉強時間が
とれなかった

今日は風邪気味

昨日暑くて眠れ
なかった

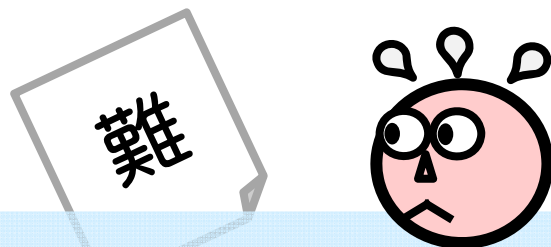
...など



バーグラスとジョーンズ(1978)の実験

◆ バーグラスとジョーンズ(1978)

被験者は、ほとんど解けない難しい課題をやらされる



課題に非常に不安を感じる状態に

➡ その後、同様の課題をもう一度やらされるとき…

「2つの条件があり、どちらに参加しても結構です」

成績が上がる可能性がある薬を飲む条件

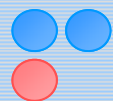


成績が下がる可能性がある薬を飲む条件



どちらに参加する？

Q10



セルフ・ハンディキャッピング

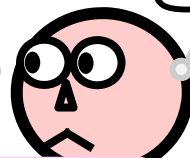
成績が上がる可能性が
ある薬を飲む条件

成績が下がる可能性が
ある薬を飲む条件

こちらを選ぶ割合が多い

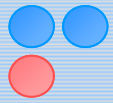
「薬を飲んだのに悪い成績を
とったら恥ずかしい…」との
不安

「成績が悪くても薬のせい」
との言い訳が可能



セルフ・ハンディキャッピング

成功できるか不安な際に、**妨害となる要素をあらかじめ
作ったり、不利な条件の存在を他者に主張すること**



本日の回答

他人が見ていると、人の行動はどう変わる？

人の行動は、他人の存在により大きく変わり得る

他人が存在することで、作業が促進されたり、逆に抑制されたりする

他人への服従や同調から、一人では決してしないことや間違いだと思うことを実行することがある

他人になるべく自分をよく見せようとするあまり、わざと不利になるような状況を作ったりもする